HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	子ども発達支援研究部門
Citation	子ども発達臨床研究, 14, 115-117
Issue Date	2020-03-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77550
Type	other
File Information	100-1882-1707-14.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

子ども発達支援研究部門

本部門では、2019 年度下記の 3 つのプロジェクトを中心に研究活動を行った。

・『さっぽろ子ども・若者白書』小中学生アンケート調査の分析
・発達への新たな理論的視座の開拓（ラトゥール読書会）
・保育における「子ども理解」形成のローカル・ダイバーシティ

1．さっぽろ子ども・若者白書をつくる会との共同調査（加藤）

2015 年度より毎年行っている小学 4 年生～中学 3 年生を対象とした調査を本年度も引き続き行った。本年度は昨年度よりさらに調査参加者が増え、札幌市内の公立小学校 17 校、公立中学校 21 校、計約 12,000 名が参加した。今年度は例年の質問項目に加え、「身近な大人を一人思い浮かべ、その人は毎日を楽しく過ごしているか」をたずねる項目、大人に対する評価を行った。研究代表者の加藤弘通が、学校・家庭・自己に関する意識の全体的な分析を行い、分担研究者の宋美蘭が授業についての意識を分析した。なお本調査の成果は『子ども発達臨床研究』第 14 巻に加藤弘通と宋美蘭がそれぞれ筆頭著者として論文として発表する。

2．教育学研究のための理論と方法論読書会の開催（発達への新たな理論的視座の開拓）（伊藤）

フランスの社会学者ブリュノ・ラトゥールが提起したアクターネットワーク理論（Actor Network Theory；ANT）が近年社会科学の諸領域で注目されている。子ども発達臨床研究センターでは、2019 年度の企画として、2019 年 1 月に出版されたばかりの『社会的なものを組み直す』（法政大学出版会）をテキストとして用いた ANT を理解するための連続読書会を実施した。本書は「アクターネットワーク理論入門」と副題にあるように、ANT の主導者であるラトゥール自身によって書かれた ANT の解説となっているものである。

輪読形式で 3 回に分けて実施された読書会では、疑問点を挙げることを目的とされた。それらの質問は訳者である伊藤嘉高先生（新潟医療福祉大学）にあらかじめお問い合わせしておき、最終回において伊藤先生みずから解説と質問への回答をいただくこととした。

4 月には 9 名で始まった読書会も、回を追うことに人数が増え、7 月 20 日に開催された伊藤先生による講義には倍の 18 名もの方々に参加いただくことができた。2 時間にわたる講義とさらなる質疑応答で会場は盛り上がり、充実した議論をすることができたとともに、ANT に対する理解を参加者各自で深めることができたように思われる。

3．保育における「子ども理解」形成のローカル・ダイバーシティ（川田）

本プロジェクトは科学研究費補助金・挑戦的研究（萌芽）の助成を受けて行われ、本年度が 2 年目にあたる。代表者は川田である。

保育者の専門性の中核とされながら、その学術的整理が十分に行われてきたとは言い難い「子ども理解」とその形成について、歴史的・地域的・個人史的な視野での実証研究を踏まえ、概念規定と研究上の課題を明らかにすることを目的とした萌芽研究である。

⑴　科研研究会の開催

科研のメンバー（代表者および分担者 5 名）を中心に 2 回の研究会を開き、研究報告と今後の研究計画に関する議論を行った。会場は、いずれも子ども発達臨床研究センター C302 であった。

【第 1 回】2019 年 6 月 9 日

研究報告①「地域子育て支援拠点における親とスタッフの子ども理解と親理解の展開過程」
（榊ひとみ、函館短期大学）

研究報告②「香川県三豊市立平石幼稚園および須田保育所訪問調査について」
（川田）

【第 2 回】2019 年 12 月 27 日

研究報告①「保育者養成における学生の学びと成長：養成課程に潜む感情規則との関連から」
（高橋真由美、藤女子大学）

研究報告②「ベテラン保育者への聞き取りから」
（美馬正和、北海道文教大学）

⑵ 主な調査活動

以下の要領で、川田が現地調査を行った。

①香川県三豊市（第一次）

日　　程：2019 年 3 月 10 日～ 14 日
調 査 地：三豊市立須田保育所（詫間町）、平石幼稚園（仁尾町）
調査内容：各園所の成立経緯、当時の地域の生業およびその変化に関する史料・資料収集と聞き取り（現所長、園長、主任等、元所長かつ園児、郷土史家、元行政担当者等）。

②香川県三豊市（第二次）

日　　程：2019 年 7 月 21 日～ 24 日
調 査 地：三豊市立財田幼稚園・保育所（財田幼児教育センター）（財田町）、須田保育所（詫間町）
調査内容：各園所の成立経緯、当時の地域の生業およびその変化に関する史料・資料収集と聞き取り（現所長、園長、主任等、元所長かつ園児、郷土史家、元行政担当者等）。

③沖縄県宮古島市

日　　程：2019 年 9 月 11 日～ 19 日
調 査 地：ひよどり保育園（西原）、福里保育園（城辺）、北保育園（平良）および西原地域周辺
調査内容：ひよどり保育園（花城千枝子園長）を拠点とし、西原の歴史と地域性、戦中戦後期の子育てと生活、子育て習俗等の聞き取り（地域在住者）。保育状況の観察、保育者へのインフォーマルな聞き取り等。

４．社会的困難を生きるオルタナティブスクールの卒業生の実態調査（宋美蘭）

2019 年の主な活動は、日韓の制度の学校教育路線とは異なる学びの路線を歩んできた、オルタナティブスクール（以下，AS）卒業生に焦点を当て、彼・彼女らの卒業後の移行の困難に注目し、2019 年 7 月と 9 月に研究調査を行い、日本教育学会（第 78 回）＠学習院大学（8 月）、日本社会教育学会・韓国平生教育学会学術研究交流＠韓国中央大学校（11 月）にて報告した。

多くの AS 実践は、学校教育の外側・周縁において、社会的・教育制度的な保障が十分に担保されていないながらも、競争原理を超える教育の実現を理念に掲げながら、成績至上主義教育に対抗し、従来の短編的・断絶的な学びと異なる教育実践が積極的に展開されている。しかし、AS で学んだ後、すなわち、卒業後の移行問題が深刻であることが浮き彫りになった。すべての子ども・若者の発達支援・保障を考える際には、こうした社会的に排除されがちな、学校の外側に存在している子ども・若者の支援とその後の移行困難さにも注目すべき課題である。

５．国際交流事業（加藤）

⑴ De Montfort University の研究者との共同調査・研究交流

De Montfort University より Sam Bamkin 氏（Senior Lecturer，当センター学外研究員）が 2019 年 1 月 29・30 日に札幌を訪れ、小学校で道徳教育のフィールドワークを行った。その調査のコーディネートを発達臨床論研究室と発達心理学研究室で行い、フィールドワークと教師へのインタビューに岡田智准教授、加藤弘通准教授、篠原岳司准教授

および大学院生が同席した。翌日に発達心理学研究室の教員および大学院生と研究交流会を行った。

⑵ フランス国立特別支援高等研究所よりインターンシップの受け入れ

フランス国立特別支援高等研究所より大学院生の Nawal Benzaouia さんを 2019 年 4 月から 6 月まで受け入れた（受け入れ発達心理学研究室）。彼女の研究テーマは「障碍者の社会におけるアクセシビリティの問題」であり、この間に車イス活動家の安積遊歩氏と交流を深めたり、博物館を見学したり、北大と道外の大学でインタビュー調査を行うことで、日本のアクセシビリティの現状と課題についての調査を行った。また学部内の研究会で「Accessibility and Fashion」というタイトルで彼女が代表を務める会社の活動についても報告を行った。

⑶ University of Saint Joseph（マカオ）の研究者との研究交流

2019 年 9 月 30 日～ 10 月 5 日、マカオの聖ヨゼフ大学の Carrie Lee Ho 博士が札幌を訪れ、発達心理学研究室と研究交流を行った。この間に札幌市内の公立小学校 2 校を訪れ、授業見学と教師へのインタビュー調査を行った。また 10 月 3 日に は「Searching for an Aesthetic Pathway: Well-being Pedagogy for Positive Changes in Teaching and Learning」というタイトルでドラマ教育に関するワークショップを行った。

⑷ 台中教育大学（台湾）の研究者との研究交流

2019 年 11 月 28・29 日に台中教育大学の Susan Shu-Chin Chen 博士が札幌を訪れ、発達心理学研究室および乳幼児発達論研究室の大学院生と研究交流を行った。この間に札幌市内の幼稚園および小学校の見学を行い、11 月 29 日には以下の要領で研究交流を行った。

テ ー マ：保育・幼児教育の日台比較
会　　場：北海道大学教育学部・大会議室
話題提供：高橋真由美（北海道大学大学院教育学院・博士後期課程）、及川智博（北海道大学大学院教育学院・博士後期課程）、Susan Shu-Chin Chen（台中教育大学・教授）
司　　会：加藤弘通（北海道大学大学院教育学研究院・准教授）